

Theme

魅力度最下位脱出に向けた「観光まちづくり」

水戸で楽しむ 大人のための修学旅行

チーム：まとり

千葉大学 工学部 建築学科

おおしま まさき

デザイン学科

いまむら りゅうた

時間割

朝の会：観光まちづくりとは

1 時間目：リサーチ

2 時間目：ミッション

3 時間目：プラン提案

4 時間目：プロダクト紹介

帰りの会：展望

観光まちづくりって

なんでしょう。

朝の会：観光まちづくりとは

今の観光に見られるあれこれ

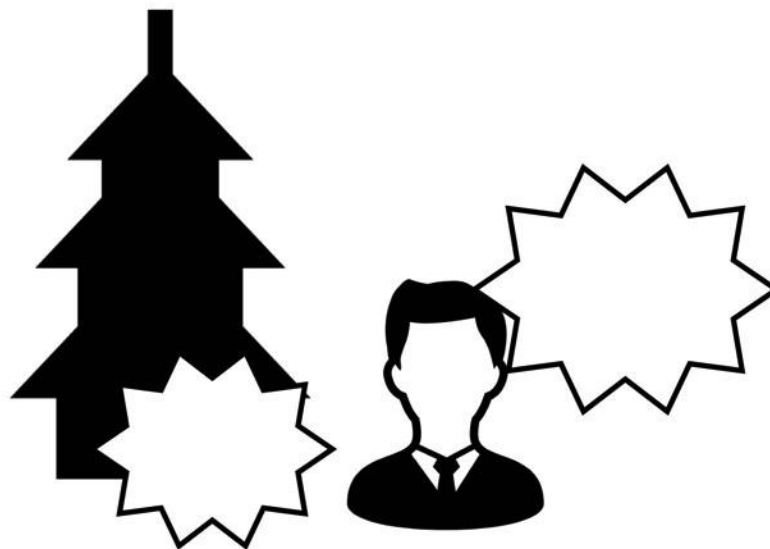


歴史のある建造物を訪れ、

「なんかすてき！きれい！」と写真を撮って SNS に投稿。

朝の会：観光まちづくりとは

今の観光に見られるあれこれ



歴史のある建造物を素晴らしい資源として、
観光客に見てもらおうと、宣伝をして客を呼び込む。

朝の会：観光まちづくりとは

これらのことは、もちろん素晴らしいことだと思います。

しかし、本当に大切なのは、

「ただ知る」 「ただ古くて綺麗」 「ただ保存する」

ではなく、

「なぜ」 「なにをしたかったのか」

というコンセプトを

“受け継いでいく”

ことなのではないでしょうか。

朝の会：観光まちづくりとは

僕らはこう考えます
観光まちづくりとは①

**その土地の歴史を理解し、
現代における解釈を施し、
時代に応じた形で未来へ受け継ぐこと**

朝の会：観光まちづくりとは

観光まちづくりとは②

その過程で、
人が地元を愛し、
外の人もその土地に興味を持つこと。

そこで僕らが提案するのが、

水戸の歴史や、土地に根付く思想を噛み砕き、

現代版にアレンジして「なぞる」旅を、

大人の修学旅行として構成した

大人のためのちょっと渋めのプランと、

プランのキーとなるプロダクトです。

1 時間目

リサーチ

1 時間目：リサーチ

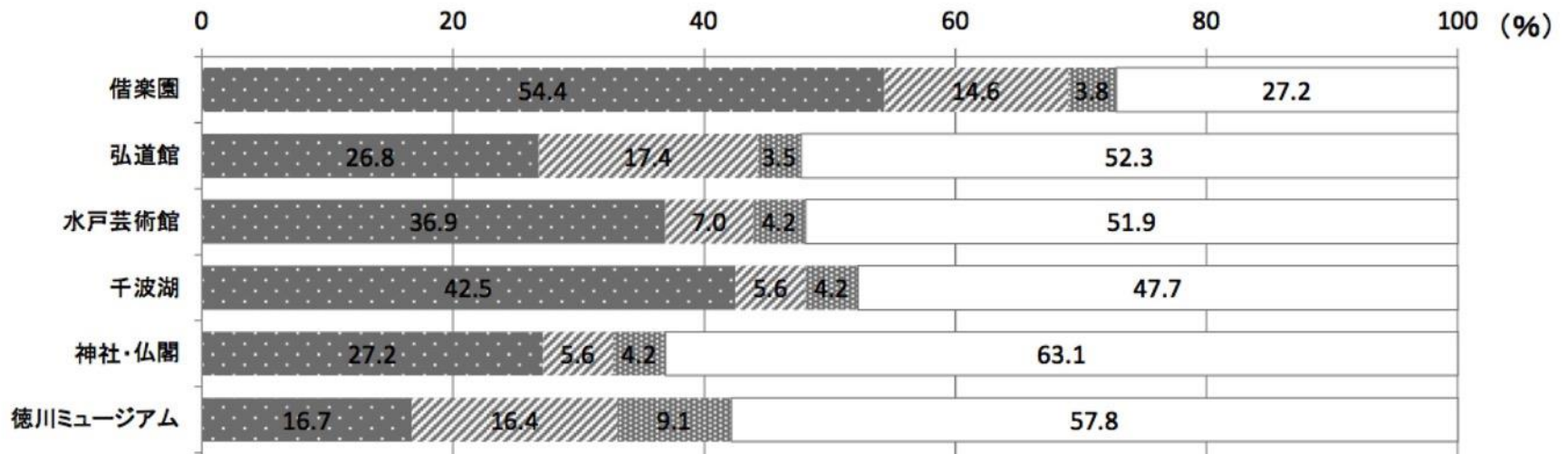
「ただ知ってる」「ただ綺麗」とばかり認識されている
場所を「もったいない地」としたとき、
リサーチを通して、茨城における、
もったいない最たる地は水戸であると、考えました。

1 時間目：リサーチ

水戸のみどころ

対象：水戸市内の観光施設の来場者（370 名）

http://www.city.mito.lg.jp/000271/000273/000281/000482/001824/001940/p001519_d/fil/28-2-24siryou4.pdf



1 時間目：リサーチ



弘道館

たとえば

“日本一大きい藩校”



偕楽園

たとえば

“梅の名所”

1 時間目：リサーチ

すぐくもったいない。

1 時間目：リサーチ

いっちょう
一張



文武に勤しみ
張り詰めた状態

いっし
一弛



気持ちを緩めて
リラックスした状態

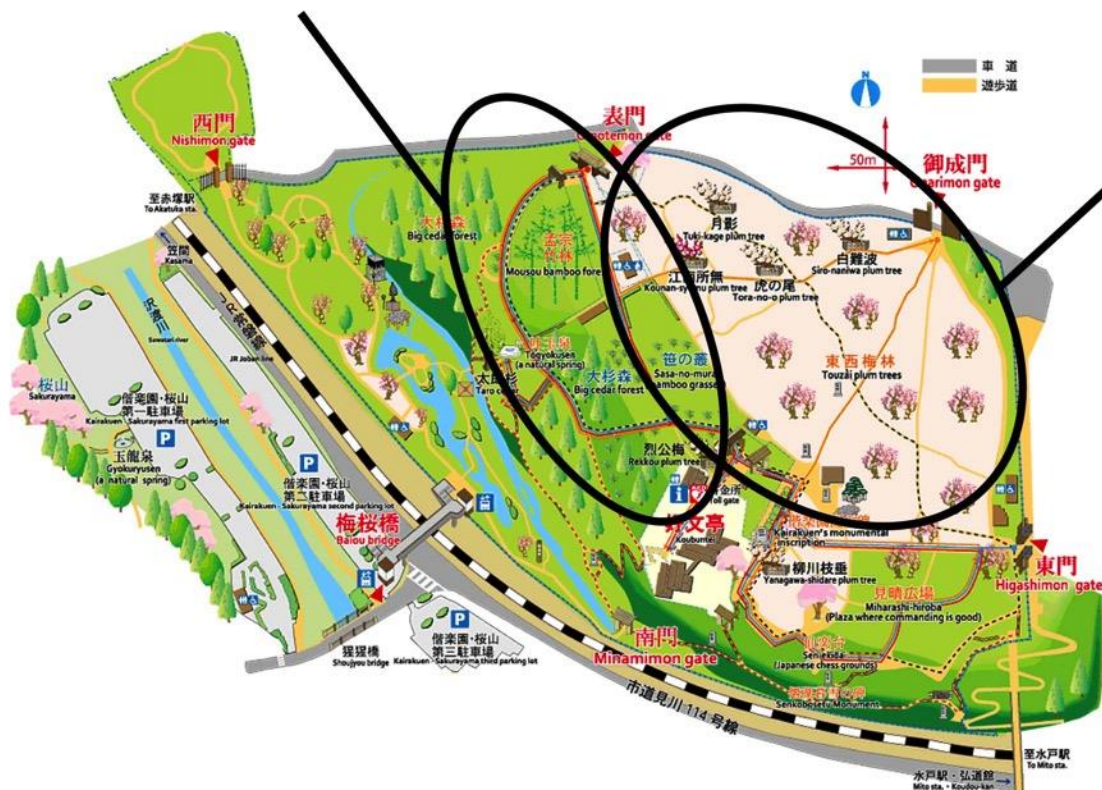
一張一弛。一對の施設として設立。

時には厳格に、時には寛容に。疲れたら偕楽園に行こう。

1 時間目：リサーチ

偕楽園、陰と陽の世界

陰 竹林や笹の生い茂る、幽遠閑寂な世界



陽
色鮮やか
香りのする
形が華やか
実を結ぶ
梅のある世界

陰の世界で気を鎮め、冷静になって世の中を見て、
陽の世界でのどかでゆったりとした時間を過ごす。

1 時間目：リサーチ

とても面白い。

しかし、梅の名所としてばかり認識されている

偕楽園は、梅の見時以外は

閑散としている。

1 時間目：リサーチ



外国の観光客を含め、
梅の見時以外は
場所の質素さに気を落として
帰られる方も少なくありません。
歴史を知れば絶対に
面白いのに…。

水戸観光コンベンション協会
職員

1 時間目：リサーチ

水戸を練り歩いて思ったことは、
ただ見ただけでは水戸の魅力はわかりづらいということ。

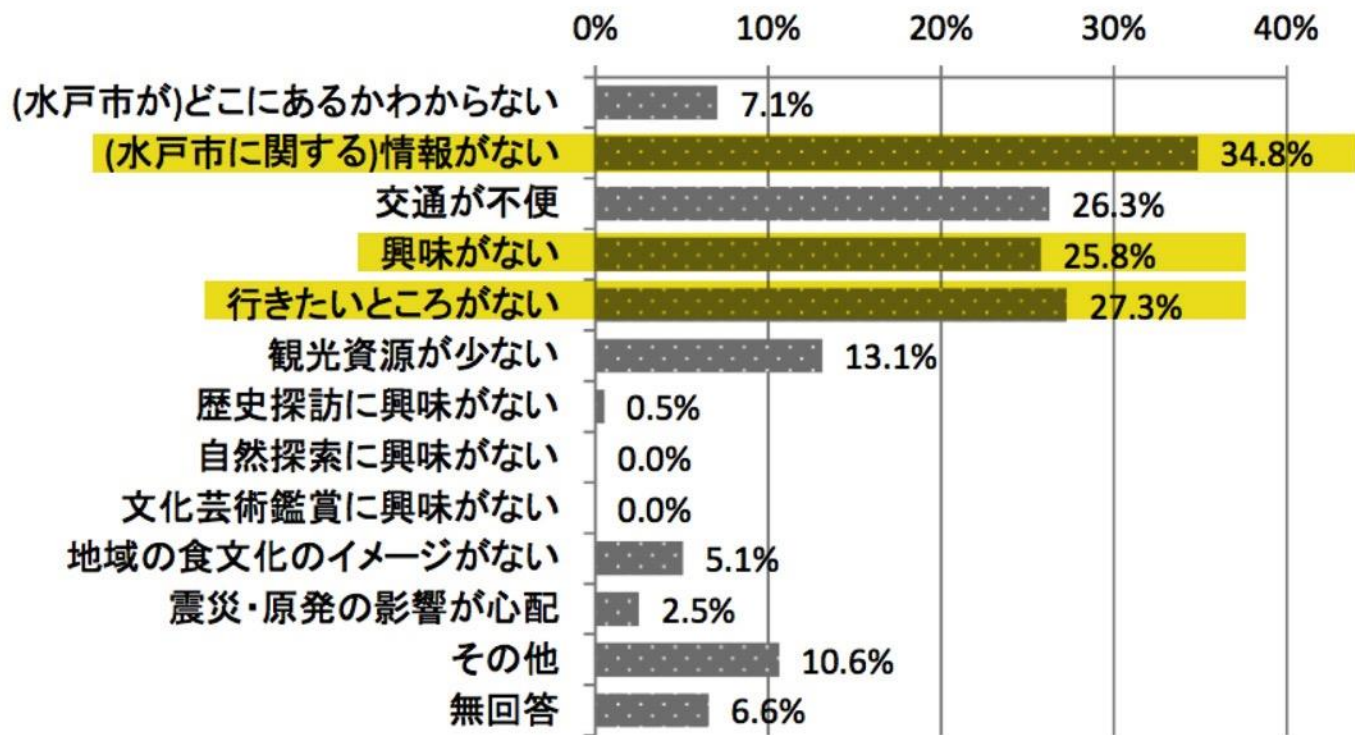


1 時間目：リサーチ

水戸に観光に訪れたことが無い理由

対象：水戸市内の観光施設の来場者（370 名）

http://www.city.mito.lg.jp/000271/000273/000281/000482/001824/001940/p001519_d/fil/28-2-24siryou4.pdf



1 時間目：リサーチ

つまり水戸って

魅力がすごく分かりにくい場所。

魅力が伝わりきっていない場所。

2 時間目

ミッション

ミッション

茨城県魅力度最下位脱出に向けた「観光まちづくり」

ミッション

伝わりきっていない水戸の魅力を、
噛み砕いて、美しく楽しい形で伝える。

2 時間目：ミッション

もう少し具体的な話

歴史の成り立ちに根付いた水戸ブランドイメージの形成



美しく楽しい、水戸の歴史と思想の追体験プランの提案

2 時間目：ミッション

「時には厳格に、時には寛容に」

「陰と陽の相反するものの調和によって、

万物は健全育成するという原理に基づき、

人間もまた屈伸して身体や心の調和を図り、修養につとめよ」

こんな素敵な思想を受け継がないのは

日本にとっても損だと思えます。

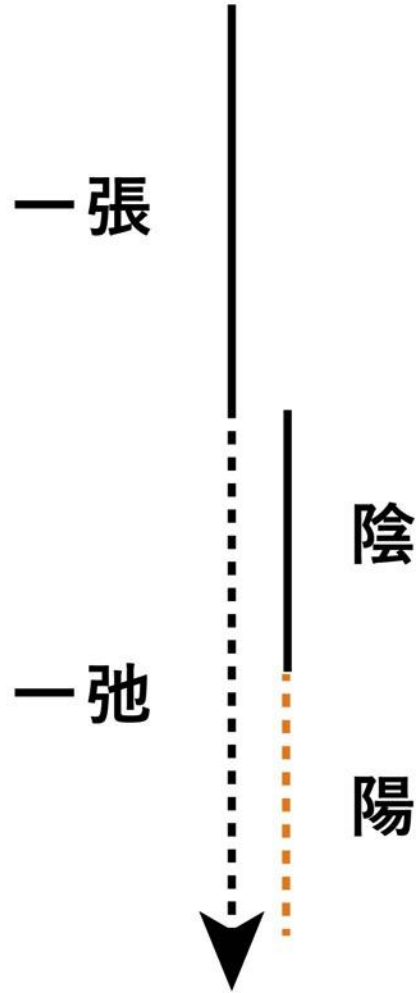
3 時間目

プラン提案

3 時間目：プラン提案

水戸で楽しむ
大人のための修学旅行

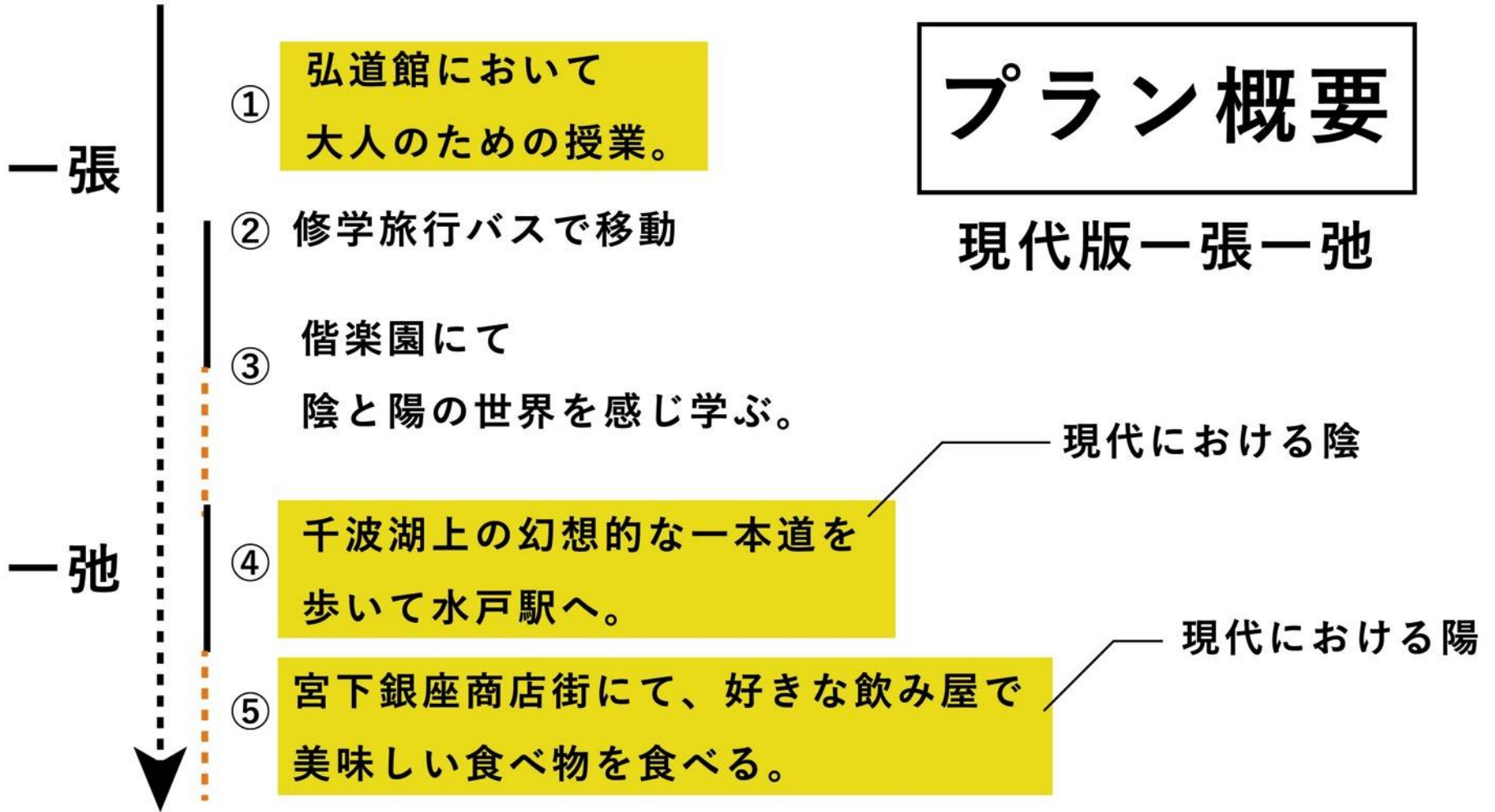
3 時間目：プラン提案



水戸の歴史上大切な思想。

一弦一弛

3 時間目：プラン提案



3 時間目：プラン提案



県立歴史館

3

偕楽園
常磐神社
好文亭
義烈館

西の谷

4

紀州堀緑地

2

水戸美術館

水戸市水道低区配水塔

水戸美術館

水戸市水道低区配水塔

5

弘道館

水戸駅

1

義公生誕の地

水戸城跡

水戸城跡

水戸城跡

水戸城跡

水戸城跡

水戸城跡

ターゲットは、

学びのある、美しい旅をしたい

20代以上の大人。

学びたい。

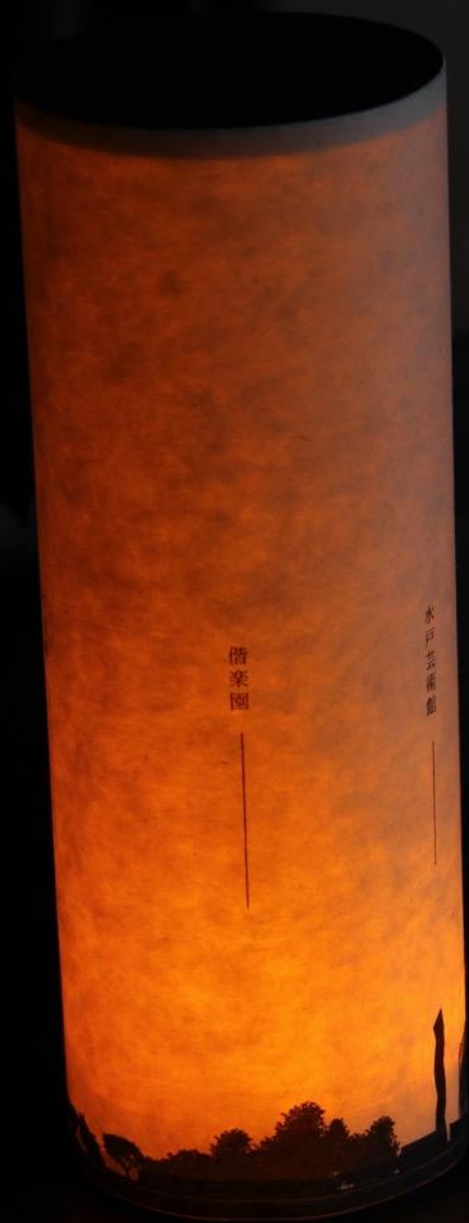
美しい自然、歴史的街並み、思想に触れたい。

風情のある場所で美味しいものを食べたい。

まず、

地図（水戸の街並み）
がプリントされた
水府提灯を配布。

学ぶ手元を照らし、
夕暮れ時を歩く足元を照らし、
光る地図として暗闇に光を灯し、
一日の思い出として持ち帰って
部屋に飾って美しいもの。



1、日本遺産弘道館で行う、
大人のための授業。

21世紀の藩校

時間割一例

1 時間目：旅と自由研究（冒険家）

13:30～14:30

20 分休み

2 時間目：ことばの未来（コピーライター）

14:50～15:50

今までは、弘道館の歴史を公演するという
ような形が多かったが、もっと新しい学びを
提供するのには賛成である。

講師側も、日本遺産の弘道館で講演する
ということは貴重な経験になるのでは。

千波湖と宮下銀座
商店街を陰と陽と置いた
のは、新規性があって
面白いと思います。

弘道館さまに
プランと弘道館の
利用の承認を
いただきました。

偕楽園公園課 弘道館事務所 係長 池田 淳 さま

偕楽園公園課 弘道館事務所 主任研究員 小塚 のり子 さま

承認

2、バスで偕楽園まで移動。



3、偕楽園にて陰と陽の世界を感じ、学ぶ。



3、偕楽園にて陰と陽の世界を感じ、学ぶ。



4、現代版の「陰」として、
千波湖上の一本道を歩いて水戸駅方面へ。

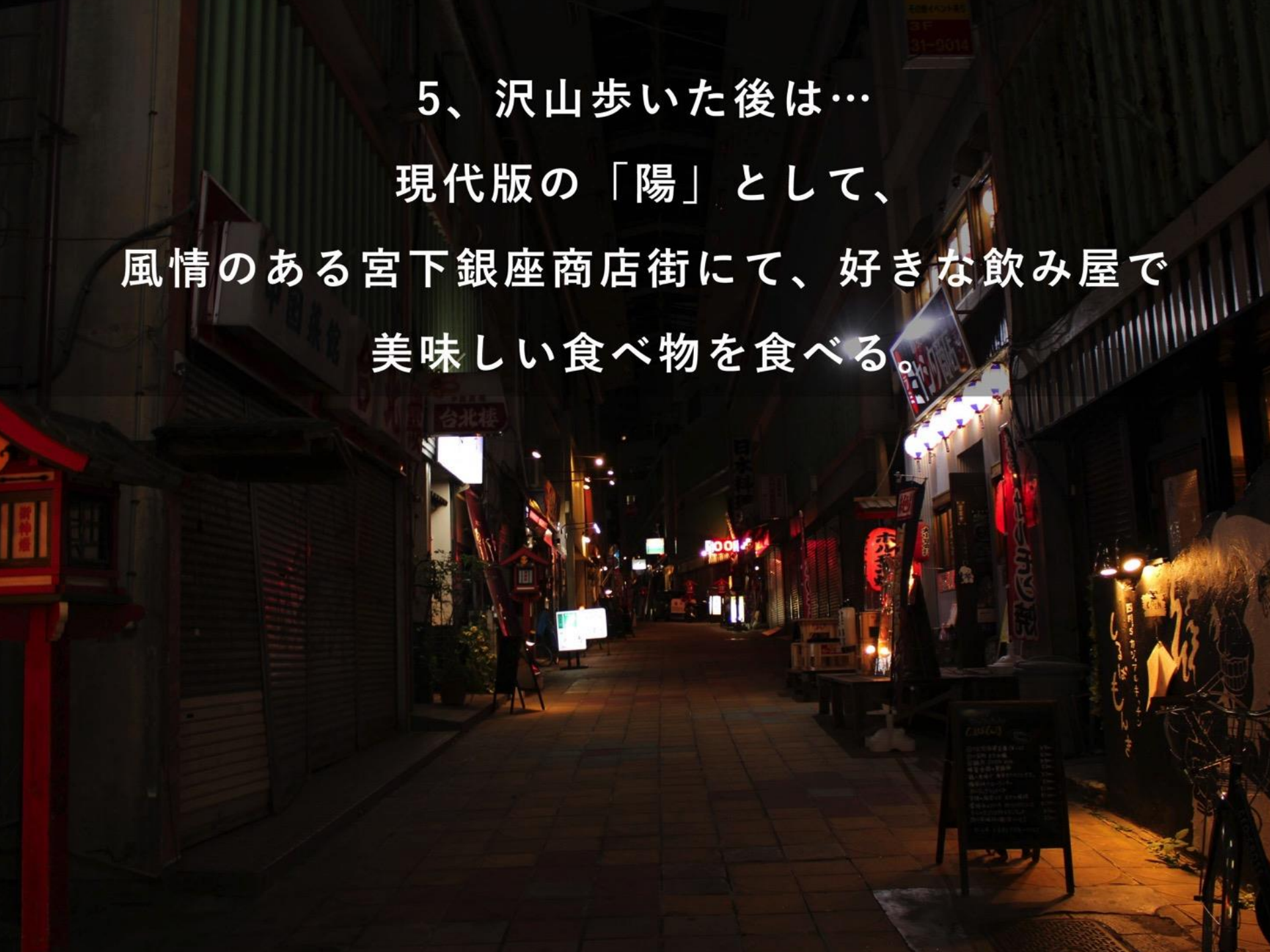


“通学路”としての湖上の一本道



提灯の灯りが列を作り、湖上に反射する。

5、 沢山歩いた後は…
現代版の「陽」として、
風情のある宮下銀座商店街にて、好きな飲み屋で
美味しい食べ物を食べる。



4 時間目

プロダクト提案

input

水府提灯の歴史

水戸は、岐阜、福岡の八女と並ぶ提灯の三大産地。

「水府」とは水戸の別称。

江戸時代、水戸藩の下級武士が生活を支えるため励んだ提灯作りが

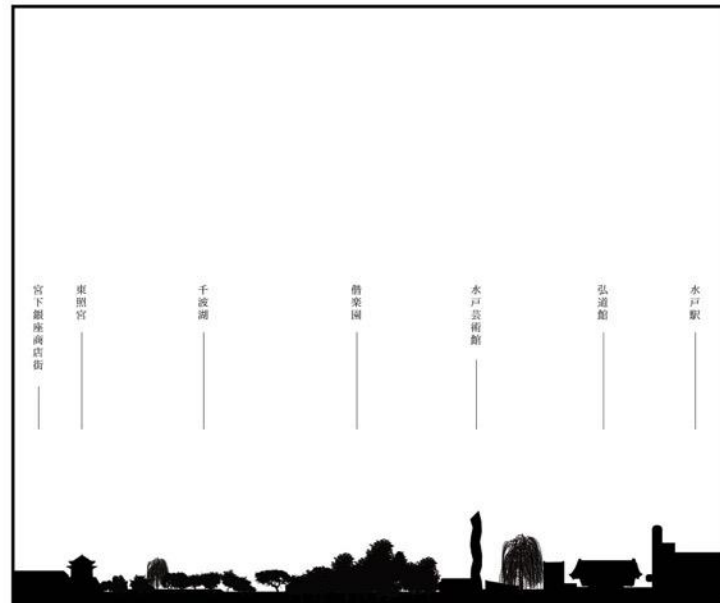
「水府提灯」の発祥と言われ、

次第に水戸藩の奨励産業となり、

江戸の町などで多く用いられました。

地図（水戸の街並み）の印刷された水府提灯

を提案します。





mock up

A glowing cylindrical paper lantern with a sunset scene and a white mug on a desk. The lantern is illuminated from within, casting a warm orange glow. The scene inside the lantern shows a sunset over a dark silhouette of trees. The lantern is placed on a dark desk next to a white ceramic mug. In the background, a computer keyboard and a pen holder are visible in a dimly lit room.

旅のお供として使った提灯。

一日の思い出として持ち帰って

部屋に飾っておけます。



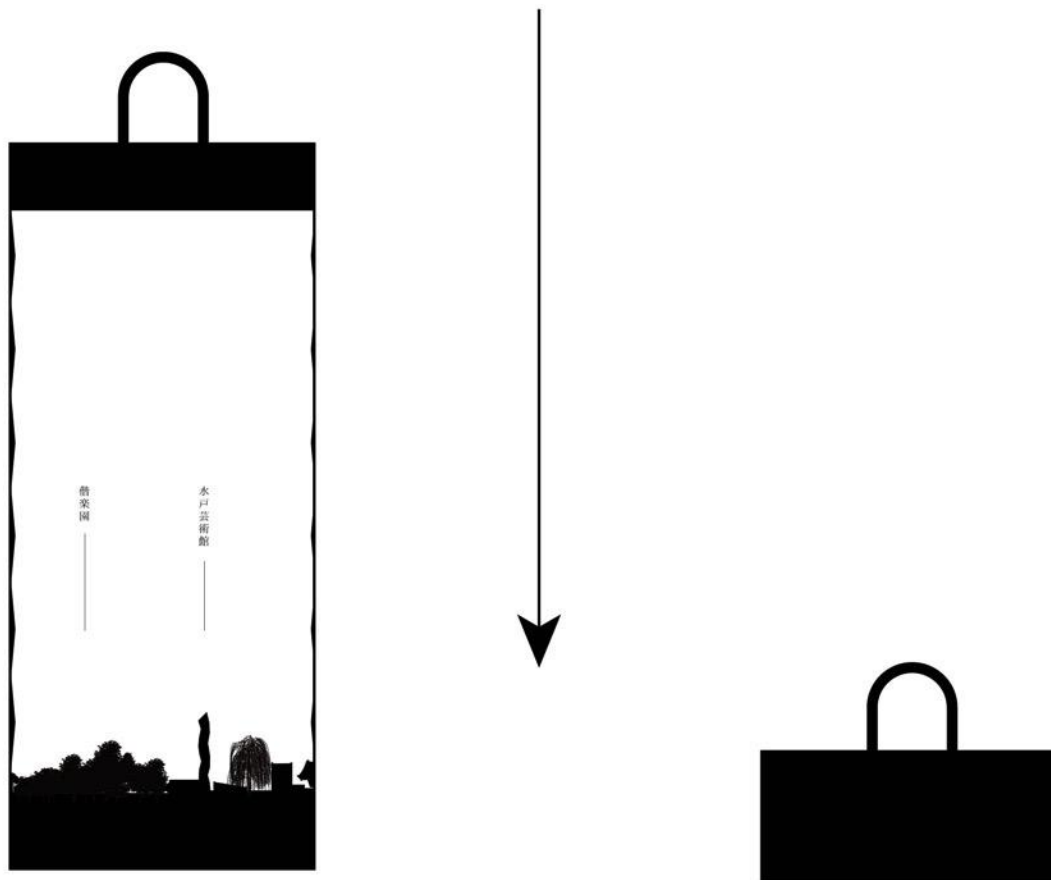
借樂園

mock up

借楽園

水戸芸術館

mock up



折り畳むことを想定しています。

帰りの会

展望

水戸で楽しむ、大人のための修学旅行

歴史の成り立ちに根付いた水戸ブランドイメージの形成

点在している観光地同士の移動手段的、意味的結びつけ

提灯を水戸のイメージに根付かせる

住民の自慢できる地元の風景を作り上げる

住民の観光地としての意識の向上

おもてなしが生まれる場所の育成

沢山歩いた後の憩いの場としての駅前商業施設の活性化

自ら参加し学べる、ツアースタッフという魅力的な雇用の創出

このプランによって、水戸を、ひいては日本の伝統を
愛する人が増えていくと、強く信じています。